

幕が上下することで観客が吸い寄せられ、時に幕の中に留まる(捉えられる)ことである瞬間に気づくと作品の一部として存在し始める

舞台装置のような空間が、ある瞬間から誰かの居場所となり、街の一部に溶け込んで行き、またそこから溢れ出していくしかけである。

**【パフォーマンスのようなインスタレーション】**

**昼間:[非日常の出現] Scene1**

パフォーマンスは、年齢性別を問わず、広く一般から募集する。パフォーマンスには、御茶の水での「思い出」をタイプライターで打ってもらい、それらを切り取った記憶の断片を街行く人々に手渡すなどパフォーマンスを行うことで、記憶の「共有」と「継承」を行う。行き交う人も作品の一部になる交流型イベントである。作者もパフォーマンスとして参加する。

**夜間:[街を照らす空間] Scene2**

照明のような存在となる空間全体でのパフォーマンス。時間とともに徐々に変化する色と、パフォーマンスの動きに連動する線状の光が御茶の水の街を照らし、照らす。

**時々:[開放される空間] Scene3**

空間が変容し、露になった内部空間に観客が吸い寄せられる。傍観者だった観客が、パフォーマンスと交差する空間となる。



観客との交差(京橋の夜間)の表現(立降者が観客のイメージ)

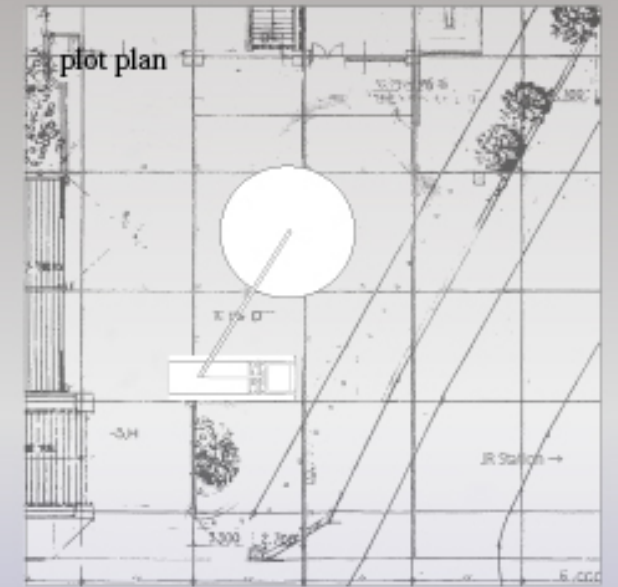
# CaPool

街中に置かれたテーブルと椅子、そしてそれらを覆う極薄い膜—会話をし、食事をし、読書をする。何かを共有し、討論する。

それらの行為の中心ある一組の象徴的なテーブルと椅子が、公開空地という場所において新しい意味と役割を獲得する過程の記録である。

私たちはこの場所で誰と、何を共有出来るのだろう。

小型自走式クレーン車を停車させある一定時間になると薄膜が吊上げられる構造とする。\*



**structure**

全体:軽量フレーム吊り構造

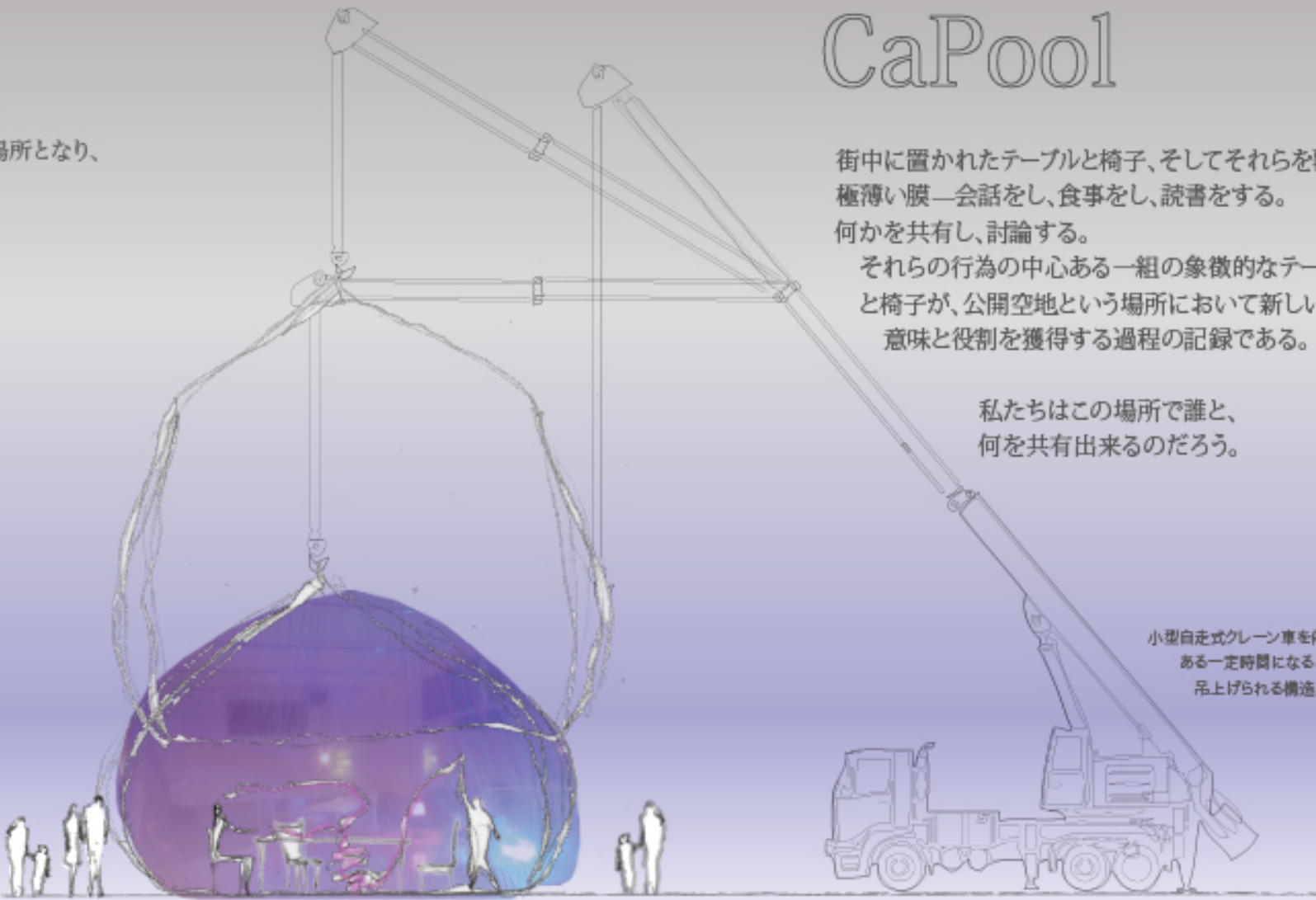
内部:半開放空気膜構造

インターバルで送風が回り空間が変容する。



透け感を重視し、吊り強度と遮風に通した薄膜を採用

\*プログラム展示期間中はクレーン車ごと随時撤収が可能



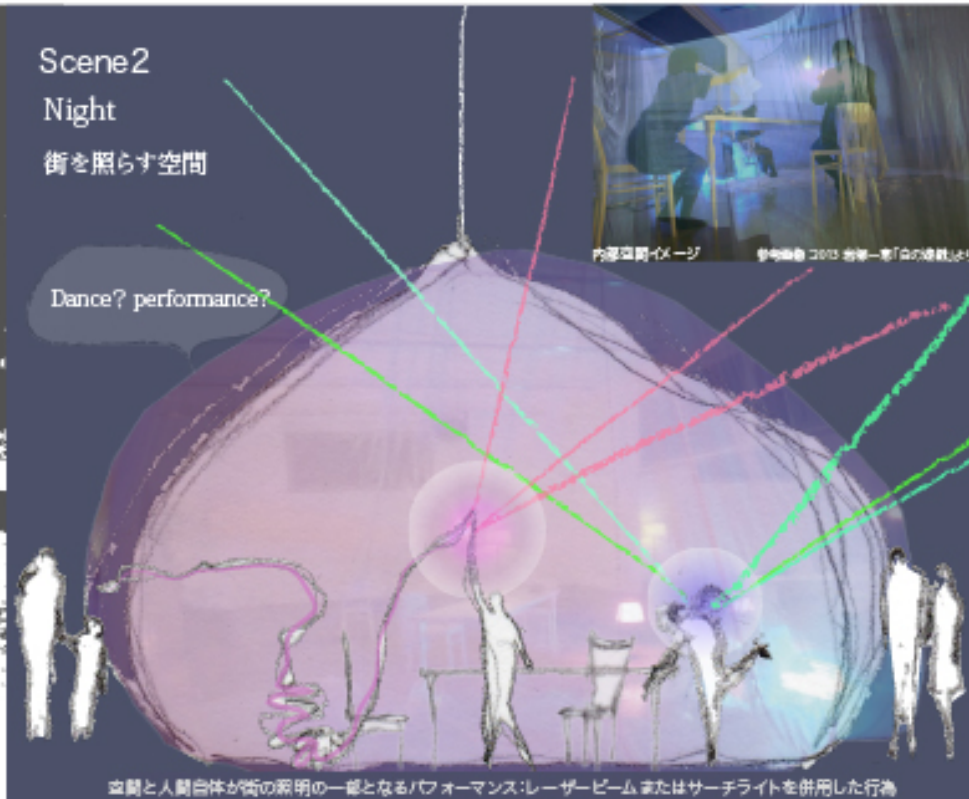
section

0 5 10 15 m

Scene1  
Daytime  
非日常の出現



Scene2  
Night  
街を照らす空間



Scene3  
Sometimes --- day time and night  
吸収される観客

